

2023 年 3 月期第 2 四半期決算に関する電話一斉取材 主な Q & A

※ 当日の質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

[通期業績予想を据え置きとした理由]

Q： 上期は計画に対して未達となった中で業績予想を据え置いた理由は。

A： 収入については、足元の状況が大きく改善してきており、全国旅行支援や水際対策の緩和などの後押しも期待できることから、下期で未達分を補っていく計画である。コストについても、上期で期ずれしたものが下期に計上されてくるほか、燃料費高騰の影響で動力費は引き続き増加が見込まれるが、修繕費や物件費その他でのコストダウンも行ってカバーしていく。

[足元の運輸収入]

Q： 足元の運輸収入の状況はどの程度改善してきているのか。

A： 10 月は計画に近い水準まで回復が進んでいる。速報ベースでは、中長距離収入は 7 割後半、近距離は 9 割に近いところまで戻ってきている。また、11 月の予約状況は、2018 年度対比で 8 割後半の水準となっている。

[定期収入の回復状況]

Q： 定期収入が計画より好調に推移している要因は何か。

A： 計画対比では、通勤定期より通学定期の寄与が大きい。想定していたよりも対面授業の再開が進んだことによるものと分析している。

[運輸事業以外のセグメント]

Q： 運輸事業以外のセグメントにおける通期計画に対する進捗状況はどうか。

A： 広告事業が計画に届かなかったことから、流通・サービス事業において計画に対する進捗が低い。物価高騰やウクライナ情勢に起因する先行きの不透明感もあり、企業が広告予算を絞っている影響が出ている。収益と利益が下期に出る傾向が強い事業特性であるため、これから挽回していきたい。不動産・ホテル事業、その他は概ね計画通りに推移している。

以 上